

令和4年度「自ら気づき、深め、創造する力を育む」

古典の授業と古典研究

—中学生が原文を読む—

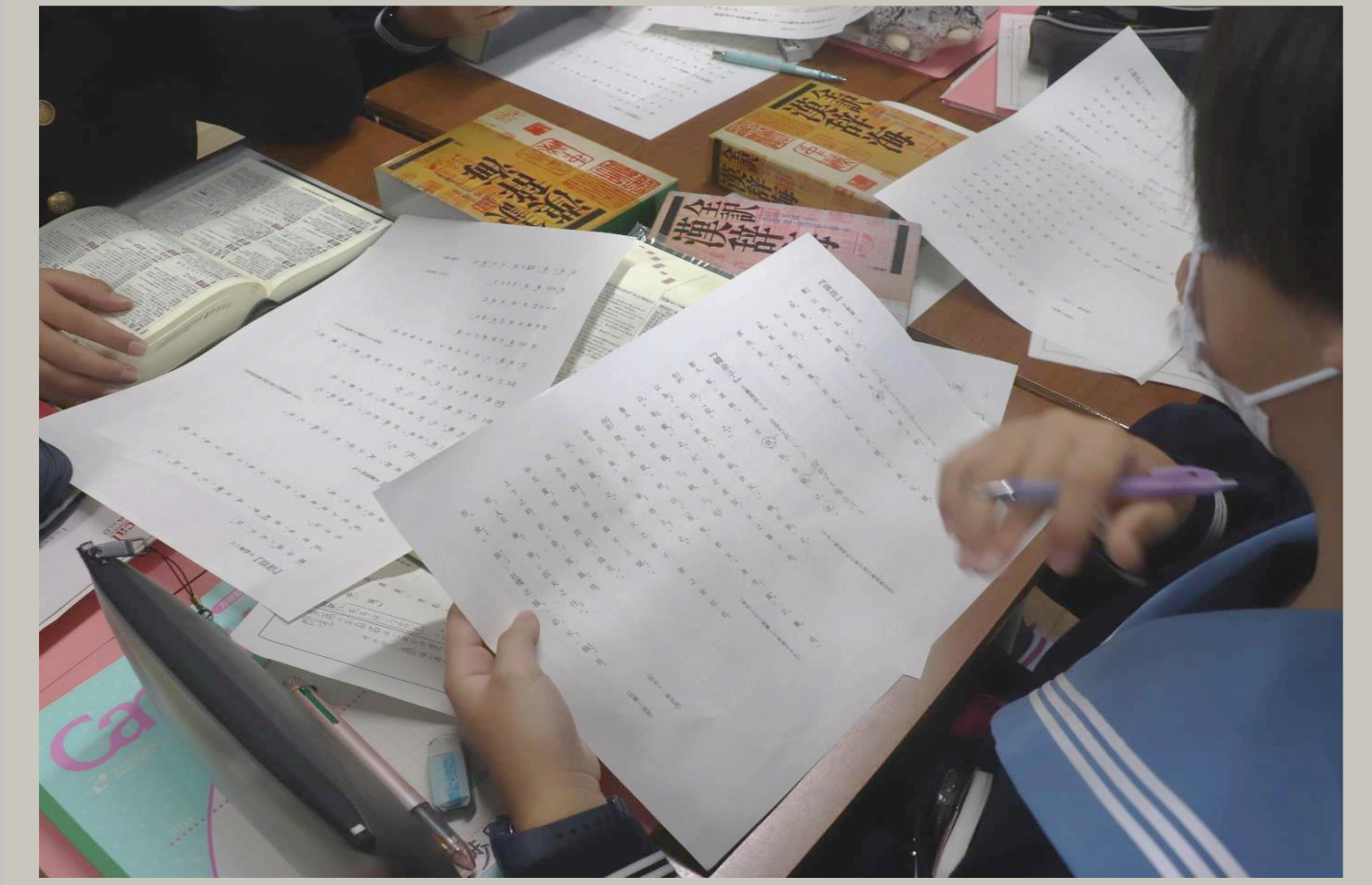
はじめに

学校教育における古典教材の存在意義については、幾度となく議論が交わされるところであり、現代的で新たな古典教育の意義が求められるようになってきている。では、古典を学ぶことの意義とはなにか。学習者自身が、古典テキストを、生きた時代の異なる「他者」の言葉として認識し、現代に生きる我々にとって何かを再認識させてくれるもの、新たな示唆を与え得るものとして体感的に捉えることを目指した授業実践を行った。

授業実践の概要

- I. 対象 大阪教育大学附属平野中学校 第1学年
- II. 単元名 『二千五百年の時を越えて —孔子と韓非子との対話—』
- III. 教材 『論語』子路篇十八 『韓非子』五蠹第四十九

『韓非子』五蠹第四十九は、『論語』子路篇十八で孔子が「直」について論じた際の「躬」のエピソードを引用し、孔子の「直」に対する考え方を批判している。授業実践では、孔子の立場にたって韓非に対する反駁を考える課題を設定した。



「韓非子」

楚人有直躬。其父窃羊、而謁之吏。令尹曰、殺之。以為、直於君、而曲於父、執而罪之。以是觀之、夫君之直臣、父之暴子也。

「論語」

葉公語孔子曰、吾党有直躬者。其父攘羊而子証之。孔子曰、吾党之直者異於是。父為子隱、子為父隱。直在其中矣。

「攘ム」
…紛れてきたものをとる。
…「窃ム」
…ひとのものをこっそり盗む。

「証ス」
…物事を明らかにする。
…「謁グ」
…告発する。

①『韓非子』と『論語』、それぞれの「直躬」のエピソードを比較する。

【学習者の気づき】

- ・『論語』では、「攘ム」が使われていたが、『韓非子』では、「窃ム」になっている。
- ・『論語』の、「証す」は『韓非子』では、「吏二謁グ」になっている。

なんで、わざわざ漢字を変えたんだろう？

ちがう漢字に変えても、意味は一緒じゃないの？

②異なる漢字を使うことによって、エピソードにどのような違いが生まれるだろう。

【学習者の気づき】

漢和辞典を用いた学習

- ・韓非は、わざと漢字を変えることで、「論語」の直躬のエピソードを自分の論に都合の良いように、大袈裟に解釈しているのではないだろうか。
- ・韓非は、『論語』の直躬の一節を引用して、孔子の思想を否定しようとしているが、一部の漢字を変えたことで、エピソードが全くちがうものになっている。

孔子にも、韓非に対する反論の道筋があるかも…

実践の成果と課題

- ・「比較」することで、「気づいた」漢字の違いからさらにテキストの理解を「深める」ために学習者自ら、積極的に辞書を用いて、漢字の変化と、その意図を探ろうとする姿が見られた。このことについては、中学生である学習者が、原文に向かい合うからこそ見られた、主体的にテキストを理解しようとする姿勢ではないかと考える。
- ・また、今回の実践を通じて、複数テキストの「比較」という手段が、学習者が興味・関心をもって学習課題に取り組むことのできるひとつの手立てであると実感できた。「違いを見つける」という課題では、学習者ひとりひとりが比較の観点をつくり、国語を苦手とする学習者でも比較的、積極的に取り組む姿が見られた。
- ・今回の実践後の学習者の感想では、いくつかの漢字を変えることによって、自分の論や主張を強める『韓非子』のレトリックに対する反応が多く、一定の関心を持っているように思えた。『韓非子』（古典テキスト）に、人を納得させるためのしかけを見出し、自分たちの言葉（現代、学習者自身の言語生活）に関連づけ、繋げようとする姿が見られた。
- ・ただ、原文を読むまでの過程において、「訓読」や「文法」、「時代背景」などの知識面については、時間をかけて指導し、素地を作る必要がある。

③孔子の立場に立って、韓非に対する反駁を作ろう。